

第3回豊浦町総合戦略推進会議 議事録

■開催日：平成30年5月28日(月)

■時間：17:00～19:00

■会場：豊浦町役場3F 議会委員会室

■出席者

委員等：平池委員、大西委員、谷本委員、片桐委員、伊東委員、小西委員、
山田委員、奇本委員、清水胆振総合振興局地域創生部長（オブザーバー）

豊浦町：村井町長、小川副町長、藤原地方創生推進室長、佐藤地方創生推進室長
補佐、白神事務補

【藤原地方創生推進室長】

ただ今より、第3回豊浦町総合戦略推進会議を開会します。初めに本会議の通知文について、本来、件名を第3回とすべきところ、第1回として送付したことをお詫びさせていただきます。

新たな任期がスタートということで、委員の皆様にご挨拶をさせていただきたいと思っております。伊藤委員から順番にお名前を呼び上げますので、町長が前に立ちましたら起立の上、ご挨拶をお受け取りいただきたいと思います。

それでは、まちづくりアドバイザーでございます、伊東徹秀様。

(以下、配席順により順次交付)

以上で、交付を終わります。

なお、工藤委員と鶴野委員については、本日、体調不良ということで、急遽、欠席のご連絡をいただいております。また、先ほどからお話ししておりますが、谷本委員は、現在、こちらにJRで向かっておりますが、線路の故障により白老駅で足止めされている状況です。

本会議のオブザーバーとして、昨年度に引き続き、北海道胆振総合振興局地域創生部の清水部長にご出席をいただいておりますので、ご紹介いたします。

【清水地域創生部長】

清水です。どうぞよろしくお願いたします。

【藤原地方創生推進室長】

続きまして、町長より一言ご挨拶を申し上げます。

【村井町長】

皆さん、こんにちは。何かとお忙しいところ、委員に就任をいただきまして、誠にありがとうございます。ご存じのとおり、人口減少問題については、各地域で必死な

思いで取り組んでいるのが現状でございます。

豊浦町におきましても持続可能なまちづくりを目指しまして、平成 27 年 10 月に人口ビジョン及び総合戦略を皆さんのお力添えをいただきながら策定させていただいたところでございます。

何もしなければその地域の経済は縮小するばかりで、町民サービスも届かなくなる恐れがあるということから、平成 28 年を豊浦町の新時代を開く元年と位置づけしまして、一步の後退も許されない厳しい時代を生き残るために挑戦する覚悟を持って全力で取り組んでいるところでございます。また、地方創生におきましては、国も意欲のある自治体へ支援する交付金制度を設けてございまして、当町におきましても、交付金制度を活用することで、財政負担を極力抑えつつ、計画策定で留まることがないように、着実にその実効性、成果が表れるように総合戦略の推進を図っているところでございます。

この会議は、総合戦略の推進管理を目的としてございまして、後ほど、進捗状況をご説明いたしますが、PDCAサイクルでチェックすることは、効果的な事業の推進に必要ですから、委員の皆様におかれましては、自由闊達な議論を期待しているところでございます。

終わりにあたりまして、子どもたちや若者が夢や希望を持ち続け、町民の皆様が元気で明るく安心して暮らせるまちづくり、これが最終目標でございますので、皆さんのこれからのご理解とご協力を切にお願い申し上げまして、あいさつに代えさせていただきます。本日はよろしく申し上げます。

【藤原地方創生推進室長】

座ったままで進めさせていただきます。本日の配布資料の方の確認を行いたいと思います。

(～資料の確認～)

会議の開催状況、発言内容等につきましては、豊浦町の広報誌ですとか、ホームページにおいて、昨年も公開しておりますことから、今回も公表させていただくことをご了承ください。

また、会議の様子について、写真を撮らせていただくこととしており、顔写真が掲載される場合があるかと思いますが、何卒、ご理解いただけますようお願いいたします。

議事を進めていきますが、実はここで座長の選任となるのですが、お配りしております運営要綱第 4 条 2 項には、座長は学識経験者がその任を行うということになっており、東海大学の谷本先生が座長となるのですが、先ほども申しましたとおり、不在でございます。時間も限られておりますことから、できれば私が仮座長という形で進めさせていただいてもよろしいでしょうか。

(～特に異議なし～)

それでは、私の方で議事を進めさせていただきます。豊浦町総合戦略の推進状況について、事務局より説明をいたします。

【佐藤地方創生推進室長補佐】

地方創生推進室長補佐の佐藤でございます。この5月1日から現職となっております。皆様には2年間お世話になります。どうぞよろしくお願い致します。

(～資料に基づき順次説明～)

【藤原仮座長】

資料1から3につきまして、事務局からご説明いたしました。これら推進状況を踏まえまして、議事の3つ目の意見交換の方に移りたいと思います。

【伊東委員】

谷本先生が不在なのは、会議の進行上、なかなかしんどいところではあります。僕は極めて雑談的でキャッチフレーズの世界ですから、良い進行になるのかわかりませんがお話をさせていただきます。

資料については、多岐に渡って豊浦町のほとんどの問題点を洗い尽くされて並んで、その途中経過の報告ということですが、行政の限界といったら妙ですけれども民間の限界という言葉もあるのです。

行政の限界というのは、例えば、先ほど大変残念だった男女間の交際の問題ですが、これをここで討議しようといってもしょうがないですし、何組かのカップルが結婚に至らずゼロといった途中経過を聞いて、我々が集まって問題にしたからといって、どうということになるのか。しかし、問題にしないのも寂しいとも思っていますが、項目として挙げて、町おこしというのは、生きた地域づくりというか、個々の人たちのケツパリ、頑張りで開拓時代から北海道のふるさとの歴史なんか考えますと、我々は願うことはできるけれども、じゃあ具体的に何をすべきなのか、これは全国的な問題ですが、特に北海道の場合は、遠いとか広いとか我々が思っている地域性の中に若いということがありまして、奈良県の町史を読むと十何巻あって、我々はその町史から始めないといけない。

時間も貯金もないという中、町の人口減という問題にぶち当たってきていますけれど、どの町に行っても同じ問題で、これを困ったことだ、辛いことだという捉え方と一種の開き直りなのですが、北海道の場合は、全道で人口が300万人を超えた時は提灯行列をやりました。400万人を超えた時は、いろいろな町村でお祭り騒ぎになりました。

どこの町史にも出てきますけれど、歴史から考えると、人口が100人、1,000人を超えた時から、提灯行列をやった時代から始まっています。何とかその感覚をもう一度、世界的な感覚も必要ですが、誰が嫁いで、どんな思いでどこがどうなったというところから、物事を発想していくような捉え方をしたいとは思っておりますが、お互いに今年より来年、来年よりは再来年ということを目指してしか生きられないものだから、今年よりも明治28年を目指すといった発想とか、大正4年を目指すことを掲げたとしても説得力がない話になってしまう。

ふるさと、行政あらゆるものが今だ拡大ということを念頭に置いて、困ったあるいは残念だといった我々は150年間拡大だけを目指すというか、それを当然のことのよ

うにして執行してきたものですから、性能的な疲労もあるし、感覚的な限界もあるし、何が何だかわからない縮小のところから、勉強し直さなければならないと思います。

行政の責任範囲ってというのは、どういうところに支援するのか、本来キャッチャーの役目を体質的に鍛えられてきたのだと思います。本当であれば元気なバッターである民間が事業を起こしてくれたりしたら一番ありがたいのですが、なかなかそれもできないということで、ただ、やっぱりこれからは民間の方々の一人一人の存在感が重くなってくる。

僕は長い間、音威子府村とお付き合いしていますが、780名の人口で行ってみると、想像しているより不機嫌でもないし元気で生き生きしている。少数精鋭って言葉がありますが、音威子府に行くともわかりますが、少数になるからみんな精鋭にならざるを得ないというか、今までは一つのことしかやっていなかったが、その人が例えばインターネットの能力を運動会で発揮するとか、予測もしなかった農協の職員の方がタップダンスの免許を持っていたなどのように個人が極めて精鋭にならざるを得ないと思っております。町民の方の民俗学的な調査みたいなことが、切り口になりえると思うことがあります。

それから、広域連携ですけれども、これも一種の流行で文化庁が日本遺産というのを発想して、これも慌ただしい話で、オリンピックまでに100のケースを認定するといっておりますが、認定されたからといって急にそれをきっかけに活性化できた地域社会ってほとんど無くて、むしろ日本中の地図のほとんどが日本遺産の該当地に当てはまってしまうのではないかと。ジオパークの運動もたくさん増えてくるから、総体的認定の価値観というか話題性が拡散してしまっていて、マスコミというのは集約された話題に対して面白がるのですが、どんどん同じことがたくさん出てくるから薄まってしまっている。活性化したのはコンサルタントだけといった問題を感じることがあります。実に緻密で切実な努力の結果ということもよくわかりますが、結果を求めなければいけないのですが、どうやって求めればいいのかと云われると誰にも正解がない。

典型的なのが男女の交際と行政の支援になってしまうという思いがあります。

【藤原仮座長】

他にご意見やご発言はありませんでしょうか。

【小西委員】

総合戦略の項目、12ページの学校給食についてなのですが、特に大規模な学校から豊浦町の小規模学校に支援学級の子どもたちが入って来ていて、給食も大変美味しく、豊浦は食べるものが大変美味しいという話を聞いております。全道的に段々と学校給食が少なくなっているような方向になっておりますので、その辺はこれからもやって欲しいと思っております。

2点目ですが、きれいなまちづくりとおっしゃっていますが、豊浦町にはたくさんの公営住宅がありまして、町道も道道も多いですが、空き家がずいぶんと増えている場所がある。豊浦に住みたいけれど「どこか空いているか」と聞かれて、草が生い茂っているところを「空いています」と言ったら、何となく気落ちすると思う。できれば、地域の人をお願いして刈っていただくのがいいのですが、なかなかご理解していただけない。

それと町道は、たんぼぼが飛ぶ前に刈っていただきたいですし、総体的な環境整備を見直していただきたいと思います。私からは以上です。

【平池委員】

ちょっと聞きたいのですが、新規就農の結果は、平成 27 年から平成 29 年で 7 人ですよね。いちごは 6,000 万円の出荷額があったみたいですが、7 人で 6,000 万円なのですか。

【藤原仮座長】

豊浦町全体のいちご農家の数字です。

【平池委員】

これはいちご農家全体の数字で新規就農だけじゃないですよ。

【藤原仮座長】

切り分けて考えていただきたい。K P I は 2 つあって、新規就農者数が 5 年間で 10 人というものと農業出荷額がいちごやベリー類に特化して 6,000 万円というものです。

【平池委員】

新規就農者のいちご施設の規模はしれてるし、収穫量が多いのは、これまでずっとやっている方で、新規就農者がいちごやベリー類だけで生活できるのかと思って見ていました。一生懸命やっている方は、冬も別なところに働きに行き、住宅を新築している方もいらっしゃるし、中にはいろいろやっている方もいるみたいですが、いちごだけでよく生活できるなと思います。

農家は何でもやらないと収入がないというのはわかっているので、いちごだけで生活するのは厳しいのかなと思います。もう少し施設を増やすとか、もう少し違う作物もやっていかなければ食べてはいけないと思う。新規就農でお金を貰っているうちはいいですが、その後が問題だと思う。

それと先ほど小西さんが言っていた空き家バンクについてですが、その人、その人で違うみたいです。うちの隣人はお金を使って草刈りされていますし、除草剤も撒いている、その方の意識だと思う。町民にやって欲しいと言ってもなかなかやらない。

うちも頼まれて除草剤を年に 2 回くらいやっています。そういうのを周りでやるとか、補助があれば一番やりやすいと思う。そうしないと空き家バンクに入らないだろうし、豊泉辺りでも仏壇が家に残っていて入れないということで、誰かが指導していかないとずっと残っていくのではないかな。難しいとは思いますが放置されたままになる。

【村井町長】

お盆と正月に子どもたちが集まる場所になっているので、無くすわけにもいかない。集まれなくなるので現実的には難しいと思う。新規就農者の件については室長の方から。

【藤原仮座長】

新規就農者が、いちごだけでは食べていけないという話ですが、先ほど地域産業連携拠点について説明しましたが、廃校となっている大岸の鉾山分校で、いちごと何の作物を組み合わせるかということも含めて、新規就農者の支援を考えていく方針です。

聞くとところによると、いちごだけで経営するのは厳しいので、いろいろなパターン、例えばアサツキを作ったりしている方もいて、なるべく農業だけで食べていけるような仕組みづくりをするために地域でも支援していただく形で進めておりまして、ここにおられる山田委員にもご指導をいただいております。

先ほど町長が言ったように空き家についてアンケートを取ると仏壇の問題、相続の問題などいろいろあります。貸したくない、売りたいくないという人もいるし、中には、売りたいけれども相続や家族関係がうまくいかないなどの理由により、現状での空き家の登録は厳しいとは聞いており、なかなかうまくいっていないのが現実です。

ただ、空き家バンクに登録したら、これまでの状況を見ますと条件の好いところはすぐに決まります。欲しい人、買いたい人は、たくさんいてニーズは多い。物件情報は少ないです。今に廃墟だらけになるのではとの危惧はあります。

【村井町長】

今であれば少し修繕すれば入れるけれど、あと5年、10年経ったら、床が落ちて入るに入れなくなってしまう。

【藤原仮座長】

片桐委員、今の話で伊達市の状況、また、他のことでもいいのでご意見がありましたらお願いします。

【片桐委員】

空き家バンクについては、他の市町村でも同じような悩みがあると思います。

実際に伊達の空き家バンクに登録するための物件調査では、半分以上が今すぐに使えない物ばかりで、ここに住むのかというものが多かった。伊達の場合には、不動産業者が仲介して、良い物件だけ載るのですが、仲介するよという業者が付かないことが多く、物件があまり載らないのでWeb登録を辞める人も多い。

伊達は、空き家率が元々低いのですが、載せたい物件は使えない物件で、載せたくない物件は使える物件が多い。それと今は住んでいないが、家の中に物がまだ残っているような状況の中で、結局、商工会もWebに載せるのを諦めました。

この資料全般を見ていて思ったのですが、1回の会議で総合的に見るのはきついなと思います。

例えば、この数字だけを見ると観光客は減っているとイメージしてしまいがちですが、実は減っていないのです。26年度に比べて増えている。去年のデータから見ると減っているのだから、これを減っていると評価するのか、増えていると評価するのか。私は増えていると評価するべきだと思う。そうやって見ると、5年間という年限の問題はありますが、KPI事態を見直すことも必要があるのかなと思って見ていました。

それとスポーツ施設の利用の関係で、この理由だったら、今後、増加することは考えにくい。だとするとこの数字をKPIに設定すること自体に無理があると思われるべ

きだと思えます。そういうことも含めて、今とは言わないけれど立ち止まるときは必要だと思って見えています。

私は、去年行った「海産総選挙」をすごく評価していて、先ほどの説明でもおっしゃっていましたが、マスコミが飛びついたというのは、すごい宣伝効果だと思えますし、またああいうことができないか、それと小幌があるので、ああいうアイディアマンを育てたいし、地域でそういう人が欲しいと思って話を聞いていました。

少し関わりがあるのでDMOの話をしませんが、DMOは、7月設立に向けて準備を進めています。ここにKPIとして、25プログラムを造成したと書かれていますが、DMOになるであろう組織で打合せをしています。当面は25プログラムから増やさない話になっております。いたずらに増やしても課題にも書いてあるようにガイドの数だったり、ガイドのスキルが追いついていかないので、いたずらに増やすのではなく、今のプログラムを深掘りする、また、もっとガイドを増やしていくことを中心に立ち止まって考えなくてはならないと思えます。

7月の設立予定で立ち上げて、その後で具体的に動いていくこととなりますが、作りましたというだけで終わらないように頑張っていますので、来年のこの会議の時には、もう少し具体的な報告ができると思えます。

【藤原仮座長】

KPIの設定につきましては、現状のままでいいのか、庁内でも話し合っておりまして、観光客数についても先ほどもお話がありましたとおり、増えてはいるけれど、10%増と設定されているので、達成していないということになります。

スポーツの推進事業でも人口も子どもの数もスポーツ関連団体も減っているというのが事実です。また、先ほど少し触れた婚活交流のKPIで2組が結婚というのも非常に厳しいです。でも、実際に結婚されている方はいます、農業者にもいます。

大西委員、商工会の立場から見てご意見はございますか。

【大西委員】

婚活ですが、本気で取り組んではいないのかなと思えます。なぜかというとなり男性側の参加者が少なく、出るだけでもいいから結婚したい、したくないは関係なしに出で欲しいと。これでは集める段階で男性は結婚しないと思えます。そして、女性も今回は札幌開催でしたが、その前の豊浦開催でも豊浦の物が安く食べられて、飲めて、楽しめる合コンのような感じのノリなのかなと思えます。

本気で結婚したい人、商工会青年部で実施し時には、女性を集めるときに本気でやらなくてはいけないということで、結婚相談所に登録している人をその会社と連携して取り組んだそうです。

逆に今の感じでやっているのであれば、情報提供だけで開催しない方が間違っていないと思えます。そこまでできるのであれば、開催するのは可能かなと思えますが。後継者がどうこういいますが、実際、自分の子じゃないと後継者にはなれないというわけではないので、会社や親、先代とかは、自分の後継者を残したいと考えるのかもしれませんが、継ぐ人がどう考えるかはわからないので、現状は難しいと思っていました。

スポーツの利用で、ふるさとドームにおいては、何だかんだいろいろな団体が使

っていて、町民開放が少ないと感じます。その辺の外で遊んでいる人たちもいますので、その人たちが、使えるようにしてあげるともう少し増えると思いますし、この辺の近くの方は、とわに一で遊んでいたりするのかなと思っていました。

【藤原仮座長】

ありがとうございます。奇本委員から何かあればお願いします。

【奇本委員】

観光DMOについては、町にプレイヤーの数が少なすぎる。頭の方はたくさんいますが、何をやるのかほとんどわかっていないから、豊浦町のみんなをプレイヤーとしてできればいいと思う。

おもしてなしとか来てもらう時の姿勢、豊浦町の考え方をもう少し全体に周知できればと思います。そうすれば空き家にも結び付くと思うし、自治会に対してもなぜこういうことをしているのか、地域の方と今、こんなことを話し合っているということ町民にも把握してもらった方がいいと思う。

もう一つ、期待しているのは漁業です。谷本先生もいるし成功していればいいなと思います。

もう一点は、道の駅で売り出す商品について、チェックしてみてもいいと思う。コロッケを作るのでも何を作るのでもいいけれど、あまり硬く考えずにやってみて、お客さんの反応を見てみるというのもいいのではないかなと思う。あまり計画を立てないでやるという形も部分的にはいいと思う。

【藤原仮座長】

去年は、ホタテの大量へい死もあって、海洋環境も変わってきていると思いますし、DMOは町としての迎え入れる体制を進めています。

農業の話も出てきていますので、山田委員から農業中心じゃなくてもいいのでお願いします。

【山田委員】

今、新規就農者と関わらせていただいているのですが、7人就農されて接している中で、この先も農業で生きていけるだろうなという人は2人、駄目じゃないかなという人は2人、残りの3人はどっちつかずの状況です。なるべく接点を持って、できることは手伝えるようにしていますが、駄目じゃないかなという方には、こちらから何かを言っても受け入れてもらえない。そうするとこちらからは言いづらくなりますし、向こうからも決して来ることはないので、手助けができないという状態です。

7人全員が、いちご栽培じゃないので、先ほどバイトの話もありましたが、僕たちの地区は畑作地域なので、何もない時期はバイトで稼いで来いと。ただ、他に新規就農者を育てている方の中には、バイトはするなと言っていて、意識を向けるなということで同じ農業者でも感覚は違います。

いちごを始められた夫婦二人がいて、いちごは時期が集中しているので、その期間以外に稼げるものということで畑を作ろうと思ったら、畑のことは何も勉強していないので、どうやって作るのかということから始まります。

僕は、半分捨ててあったようなトラックを拾ってきて、整備をしながら畑のおこし方を教えるようにして、常に接点を持って聞いてくる方は、残っていけると思うのですが、逆に駄目じゃないかという方は、K P I の指標を下げるようで申し訳ないのですが、クビにしないといけないのかなと。

3年間で7人、そのうち2人は残って、実績は落ちますが一般的なデータでは残るのは、3割程度といわれているので、そのとおりなのですが、若干切ない面もあります。いちごに関して、僕が直接教えられることはないのですが、例えば畑と接する機会はなるべく多く持とうとしていますが、もしかすると全体の流れでクビにしないといけない評価を持っていますので、K P I は下がってくるかもしれません。今研修中の方もいますので、どんどん数を増やして育てるしかないと思っています。

【藤原仮座長】

新規就農者は、誰でも受け入れている訳ではないのですが、中には、夢だけを持って来られる方もいらっしゃるので、そういう方は振るいにかけています。実は他の町で駄目だったから、こっちに来たという人もいます。

先ほど山田委員が言われたように、2年見てその時点で諦めなさいというのも本人のためになるのかなと思います。

実は5月から、うちの部署に地域おこし協力隊がおりまして、いろいろなところに酪農ヘルパーのような形の農業ヘルパーとして活動していただいております。農家の方々からは、とても助かるという声も聞いておりますし、もう少ししたら、礼文でいちご狩りが始まりますが、そちらからもぜひ来てほしいと言われております。その方はマイファームの卒業生で農業について勉強をしております。ただ、今後こういった形で就農していくかは、まだわからないところです。

【伊東委員】

酪農ヘルパーと同じような形とは。

【藤原仮座長】

酪農ヘルパーの農業版のようなものです。大岸の農家では、旦那さんの調子が悪くて、この期間にいちごをイチゴ取らなければならないということで、手伝いに来て欲しいという時にもお手伝いに行ったりしていました。

【平池委員】

それは、登録制度になっているのでしょうか。

【藤原仮座長】

これまでの地域おこし協力隊と同じように募集しておりますが、当室で農業ヘルパーという形で募集要項を定めたところ、本人から、それだったらやってみたいという話になったわけです。

【平池委員】

私たちが、その方を使いたいという場合は、どこに申し込めばいいのでしょうか。

【藤原仮座長】

協力隊員が、今一人ということもありますので。

【平池委員】

私たちのような夫婦二人の場合、どちらかの調子が悪くなったときに一人ではできない仕事がある場合、酪農ヘルパーを月2回定期的に入れていますが、何かがあった時にすぐに来てもらえるように、急に来られても何もできないです。でも、協力隊のような人がいるのであれば、二人だけで間に合わないときもあるので、申し込むところがどこか知りたいです。

【藤原仮座長】

協力隊は、5月に来たばかりで、今はある程度行先が決まっています。どのようにするか、今後、情報をお伝えしたいと思います。

【平池委員】

そういう方がいるなら情報を知りたいです。

【藤原仮座長】

そういったことも含めて、来月の広報で協力隊のご紹介をさせていただいています。ただ、お話ししたとおり、今は引っ張りだこな状況です。

【平池委員】

協力隊は、役場でやっているのでしょうか。

【藤原仮座長】

そうです。午前中はここに行って、午後はここに行くみたいな形で活動してもらっています。住んでいるのは大岸です。基本的には役場に来ないで真っ直ぐ農場に行ってもらっていて、そういう形で進めています。

【伊東委員】

全体的なことですが、この辺りだと港を中心にした散策が大変人気が高いという話をしましたが、地域特性から考えるとホテルが見えますが、この海岸線で豊浦の港の風景、海から入ってくる風景というのはとてもきれいです。すり鉢のように港があって、そこから住宅街があって、山までつながってホテルまで行くのですが、港や海からの風景というか、上陸するところが商店街ということなのですが、商工会の話題性や活性化のため、ホタテ釣りのイベントなどのためにも何とか海から豊浦町へ上陸してもらいたい。それは室蘭から森までの噴火湾全体です。

昔の町史を読むとわかりますが、噴火湾は半径50キロで海岸線が150キロのほぼ円形の地域社会です。豊浦町はちょうど海岸線で見るとやや真ん中にあります。鉄道に乗っている人は海岸線に市街地があるのはわかると思いますが、車でドライブしている人はそこに町があるのかわからない。しかし、海から見るともの見事に囲まれた

町があつて、港があつて、船が停泊していて、住宅があつて、道路があつて、商店街のような雰囲気もあり、何とかそういう視点を例えば小西さんが考えていらっしゃる問題、片桐さんが考えていらっしゃる問題、奇本さんが考えていらっしゃる問題もどこから出発させるかという時に、海からの目線で小舟に分散した観光客が段々と寄り集まってきて、ここに上陸してくる雰囲気のストーリーが何となく頭に浮かぶ気がします。

それから、もう一つは洞爺湖有珠山ジオパークの問題で、ジオパークは当初は盛り上がったのですが、現場の人はなかなか苦戦中で、ユネスコのお役人も専従者を置かなければだめだと。国家公務員が言い訳づくりというか、しょっちゅう視察に来て、あなたが遊びに来たいからだろうと思うことがあります。それというのも豊浦町の海岸線はジオパークの一部なので、ここで頑張ることも必要だが、もう一つ連携していくと、例えば様似町は世界ジオパークの町で、豊浦町も世界ジオパークの町です、両方とも太平洋側です、昔でいうと東蝦夷地です。もう一つ言うと有珠の善光寺や様似の等樹院、厚岸の国泰寺など徳川幕府が、蝦夷地に蝦夷三官寺というお寺を作った。

なぜ、作ったかというところロシアがキリスト教徒化しようという運動があつて、そうすると幕府としては、鎖国とキリシタン禁制という二つのタブーを破られたことになってしまう。町史に出ている歴史的な息使いとしては、何か発見できれば豊浦が世界と結びつかないかと思っていますが、港に集約して海岸線から人の協働性を作りたい。

何か新しい切り口でテーマを決めて、豊浦のことをもう一度勉強してから、議題を皆さんの方から絞っていきたいと思っています。そんな進め方がいいのかなと思います。

(～谷本委員到着～)

【藤原仮座長】

先生は何が話されていたのか、全くわからないでしょうが、2年間、委員をやってきた中で、何かお話しをいただければと思います。

【谷本委員】

この協議会を今年何回か開催する予定はありますか。開催回数が少ないので、前回、何を議論したのか、思い出すのに時間がかかってしまう。

【藤原仮座長】

3年前に総合戦略を策定会議で作って、1年に1回検証するといったイメージで動いていますので、先ほど伊東先生にも言われたのですが、今後、K P Iの見直しがあるかもしれないので、年に1回ではなく、もう1回くらいは考えなければならないという気がします。

【谷本委員】

もう少し先を見た、今後の町のいろいろな戦略を予算に関わらずにやるという意味では、もう少し回数がないとなかなか深い話にはならないと思う。回数が多ければいいわけでもないが、伊東先生も言ったとおり宿題を持ち込みながら、提案型で持って

くるような形がいいなと思う。

【伊東委員】

この3年間の進行状況を見ていると、出発点が国の予算を獲得するという目的でコンサルタントに一括依頼することで出発して、下手をしたら「豊浦」という名前の居酒屋ができるんじゃないか、一軒目に室蘭、二軒目に札幌、三軒目に東京ということを書いていました。でも想像していたものが全部消えた。失礼ですが、パソコンさんがアライの証明のために我々を集めた。議題が小難しく、達成率が何%だとか、いかにもコンサル的な進行の仕方というのがあります。ソフトの方からハードになっていって報告書になる。我々は、結局アライのための承認なのだと思います。

【谷本委員】

地方創生の検証として、こういった会議はやはり必要です。

【伊東委員】

交付税、交付金という世界です。

【谷本委員】

それはそれで、お金を獲得することも大事なことです。ただ、ここに出てきたいろいろな話を実際にみんなが元気になるような各論も大事なことだと思います。お金を獲得するだけじゃなくて、その中でみんなが元気になって、海から上がってくるメニューのようなものでも何かないのかなと思います。

【伊東委員】

平池委員がおっしゃるような極めて具体的なところから考えるとといった発想を我々もやりたいとは思っています。

【村井町長】

補助金をもらうことが地方創生の目的じゃない。やはり地域を活性化することで豊浦町民がより良く、みんなが元気に暮らせるようなまちづくりが目的だから、それに沿った形でというご意見はごもっともです。

【小西委員】

先ほどジオパークの話がありましたが、豊浦町にはカムイチャシがあつて、きれいなところがたくさんあります。カムイチャシにはエゾカンゾウがあります。15、16年前は全滅かと思っていましたがずっと残っていて、周辺に伝わると女性の方がたくさん来てくれるのではないかと思います。そういう構想でいます。

【村井町長】

バカみたいな話から生まれるんだよね。

【藤原仮座長】

それでは、最後にオブザーバーから管内の状況も含めてお願いします。

【清水地域創生部長】

胆振総合振興局地域創生部長の清水です。まず初めに、豊浦町のデータをお持ちしたのでご紹介します。

まず、なぜ総合戦略を作ったかという人口減少対策です。これに関するのですが、実は2010年の豊浦町の人口は国勢調査で4,528名でした。

厚生労働省の関係団体の国立社会保障・人口問題研究所は、2040年の人口予測を2,621名としました。豊浦町の人口ビジョンでは、2040年に3,353名となっていますが、実は国立社会保障・人口問題研究所では2,621名となっており、豊浦町は頑張って732名人口を増やして3,353名にするという計画で、この5年間どうしようかというのがこの総合戦略なのです。

皆様いろいろなことをやっておられて成果が出ている部分、出していない部分とありますけれども、2018年1月時点でどうなっているかという4,080名ということで、2010年の国勢調査から約7年3か月経っておりますけれど、448名の人口減ということで、年に直すと大体60名くらいの人口が減っていることとなります。

もう一つデータとしてご紹介したいのが、住民基本台帳人口移動調査というのがあります。転入と転出の差がどれくらいあるのかという調査なのですが、調べてみますと2015年は8名の転出超過、2016年が16名の転出超過、2017年が71名の転出超過で、ちょっと2017年の転出超過が多くなっている。これは何かあるのかなと思いました。

基本的には、学生が大学に入ったりして、住民票を移すとかあるいは民間企業の方の転勤などで転出超過が出るのですが、71名の転出超過が出ているので、少し2017年の転出超過の原因を研究した方がいいのかなと思います。

自然減は、子どもが生まれて増えるのと寿命が来られて亡くなられる方で、人口が減るのは自然減なのですが、地方創生のところで重要なのは、この自然減をどう緩和するのか、あるいは今私が紹介した転出超過の社会減をどう緩和するのか、この車の両輪をやっていかなければならないと思います。

自然減の部分は、子育て環境を整備して子どもが生まれる環境を作ってどうこれを抑えるのか、また、社会減の方は、今日ご披露いただいた新規就農者の確保やこれから豊浦町で行われる農業研修施設の活用などを通じて、仕事づくりをしてどうやって転出超過を抑えていくのか、この車の両輪で人口減の緩和をやっていかなければいけないのかなと思います。

その中で、管内各地の動きを見ますと地方創生というのは教育だと気づき始めていて、伊達市は「伊達学」といって、地元の中高生に伊達の良いところを勉強してもらうという取組を始めていますし、むかわ町でも「むかわ学」という取組を始めています。やはりどうしても進学で札幌、東京に出てしまっ、そのまま就職してしまうかもしれませんが、地元ってやっぱりいいよなと意識を持ってもらって、将来は戻って来たいなと思ってもらえるような地域づくりが大事だと思っています。そのため教育という部分を検討されてはいかがかなと思いました。

それと「ベリータウン構想」というキャッチーな言葉で何とか推進してはどうかと思っておりますが、聞いていると「ベリータウン構想」とは何だと、何を持って「ベリ

ータウン構想」にするのかが具体的になっていない。先ほどこの会議をそういう具体的なプロジェクトについて話し合う場にしたいというお話もありましたが、「ベリータウン構想」を具体的にされてもいいのかなと思います。

せっかく「ホタテオーナー制度」をやっている人気が出ており、厚真町では「田んぼオーナー制度」も人気が出ておりますので、例えば「ベリータウン構想」のようなチャレンジをされてもいいのかなと思います。私としては「ベリータウン構想」を何とか具体化されたらいいと思いますし、振興局も応援したいと思います。

それともう一点いいでしょうか。豊浦町の総合戦略の柱の観光振興の効果をご紹介します。地域経済の規模は人口の規模なのです。

観光庁の推計によりますと人口1人当たりの年間消費額は124万円というデータがありまして、それを観光客に置き換えますと外国人旅行者であれば10人、国内旅行者で宿泊を伴う人であれば26人、日帰り客であれば83人になっていまして、人口1人に対して外国人旅行者を10人確保すれば同等という視点で豊浦町の観光入込客数を見ますと、2010年で33万人、2016年で42万人と、6年間で9万人増えているので、日帰り観光客の83人で割り返すと統計上は1,080人の人口減をカバーしていて、年間に換算すると180人の人口減をカバーしているということになります。

そういった意味で観光振興の重要性は高く、これから7月にDMOを立ち上げるという話もありますし、インディアン水車も本格的に観光資源になっていくので非常に期待しておりますし、実は小幌駅周辺エリアを北海道遺産に登録申請していきまして、8月に発表があるのでこれが登録されるとまた北海道遺産観光で非常に盛り上がるなと考えております。

実はこの地域は明るい話題が多くて、6月22日には室蘭のフェリーによいよ東北地方との新たな定期航路ができますし、それと実は倶知安・ニセコ地域とこの地域は距離が近くて、倶知安・ニセコ地域と何か連携ができたらいいなと思っております。

何といたっても2030年度末には、新幹線が札幌まで開業して、長万部と倶知安にも駅ができるので、利用客をどうやって呼び込むかという時に、ここは胆振の玄関口ですので、非常に可能性が溢れております。観光振興は非常に重要だと考えておりますので、振興局としても応援させていただきます。

【藤原仮座長】

そろそろ時間になりましたので、締めさせていただきます。

本日は、活発なご議論を誠にありがとうございました。皆様からの意見を踏まえ、総合戦略の推進を引き続き進めて参りたいと考えています。

現時点では、年に1回の開催ということで、来年度はまた同じ時期に開催を考えていますが、その前にできるのかどうか、あとKPIの見直しというのがありますので、そこも踏まえまして、皆さんに連絡を取らせていただくこともありますが、今のところは、来年度も同じ時期に開催したいと考えております。

最後に確認なのですが、後日、謝金を振り込ませていただくのですが、口座の変更等がある方は事務局にご連絡をお願いします。本日はありがとうございました。

<会議の様子>

